

ヒトスジシマカ

特徴と生態

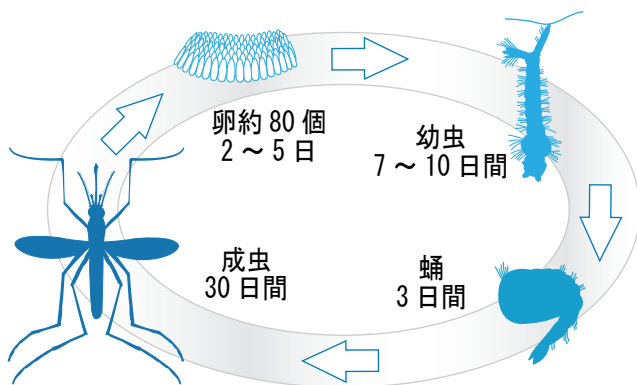


- 体長…約 4.5mm、翅長：2.5～3.0mm
- 体色…黒白の縞模様
胸背の中央に白色 1本の縦筋が通っている
- 日本で最も代表的なヤブカ類の 1種で、幼虫が 3～4 月頃より出現し、10 月頃まで活動します。第 1 回の成虫が出現するのが 4 月下旬から 5 月で、年に 7～8 世代を繰り返します。オスも交尾のために吸血源に集まります。通常卵で越冬しますが、南九州では一部幼虫越冬も行ないます。卵は溜まった水際の壁面に産み付けられますが、湿ったコケにも生み付けられます。卵は乾燥によく耐え、水位が上昇して水没すると孵化します。

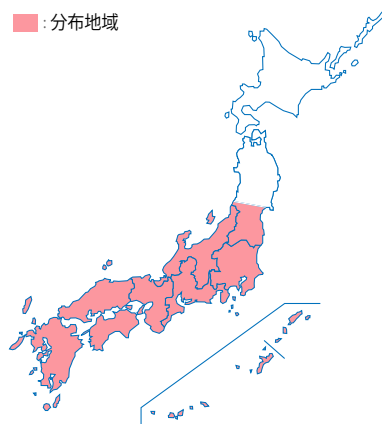
分布と発生場所

- 東北地方（仙台よりやや北）から南西諸島、小笠原諸島まで、生息しています。幼虫は竹の切株や樹洞の他、墓地の花立、雨水枡、防火用水槽、放置された空き缶、古タイヤなどの人口容器にも発生します。また、移動範囲が大変狭く、襲われた付近を調べれば発生源が見つかります。

● サイクル図



● 分布図



● 発生時期



被害

- 成虫は主に昼間に吸血を行ない、好んで人を刺しますが犬も吸血します。発生源の近くに静止していて近づくと激しく吸血します。特に朝夕の時間帯に活発に吸血しますが、夜間でも灯火の下など明るい場所でも吸血します。ヒトスジシマカはデング熱ウイルス、ウエストナイルウイルスの媒介蚊として有名です。また、フィラリアの 1種、バンクロフト糸状虫を媒介します。

駆除

- 幼虫対策：発生源の多くが野外の雨水がたまる小容器や古タイヤなどのため、これらを放置しないことが必要です。
- 成虫対策：発生源が近場にある場合は家屋内に侵入することもあるため、窓に防虫網を張り蚊の侵入を防ぐことが必要です。駆除にはエアゾール剤、燻煙剤、香取線香などによる方法も効果的です。